

「伊佐さんを守る会」設立

伊佐さんご夫妻の生活を支える募金をよびかけます

東村高江の米軍着陸帯建設に反対し、非暴力のたたかいを貫いてきた伊佐真次さん、郁子さんご夫妻の生活を支えるため、「伊佐さんを守る会」が設立されました。ぜひ、ご賛同のうえ下記まで募金を寄せていただきますようお願いいたします。

記

●設立趣意書

米軍基地の重圧に対する沖縄県民の怒りは、1995年に起きた少女暴行事件で一気に吹き出し、基地の無条件撤去、日米安保条約の廃棄をめざす世論が全県、そして全国へと広がり日米両政府を追いつめました。しかし、日米両政府は県民の要求を歪め、1996年12月2日に沖縄の基地機能を強化・固定化するSACO（サコ）合意を締結しました。SACO合意には悪名高い侵略戦争の出撃拠点・普天間基地の県内移設とともに北部訓練場の機能強化も盛り込まれました。北部訓練場（正式名称ジャングル戦闘訓練センター）の過半「返還」を条件に新たな米軍着陸帯を新設・固定化するというものです。地域住民をはじめ世界の人々の平和的生存権を脅かし、県民の命の水がめ、貴重な動植物の生態系を根本から破壊するこのような暴挙は絶対に許されません。東村高江で暮らす住民は立ち上がり、「ヘリパッドいらない住民の会」を結成しました。本格的な工事は2007年から着手されましたが、新たな米軍着陸帯が建設される現場では住民が連日座り込みを続け、非暴力のたたかいを貫いてきました。このたたかひの先頭に立ってきたのが伊佐真次さん、郁子さんご夫妻です。

ところが、防衛省・沖縄防衛局は伊佐真次さんを狙う討ちにして運動の弾圧に乗り込んできました。司法手続きを悪用し、伊佐さんに通行妨害禁止を命じる訴訟を起こしました。憲法で保障された諸権利を蹂躪する暴挙です。住民運動を弾圧する目的で起こす訴訟はスラップ訴訟（恫喝訴訟）といわれ、米国内では違法とされています。しかし、日本の司法はこの謀略に加担し、最高裁は2014年6月17日、伊佐さんの上告を門前払いにしました。こうした権力総ぐるみの攻撃にも屈することなく伊佐さんは信念を貫き、果敢にたたかっています。

ただ、押し寄せる攻撃とのたたかひのなかで伊佐さんは苦しい生活を強いられています。伊佐真次さんは沖縄のトートーメー（位牌）をつくる数少ない職人で、沖縄の伝統文化の継承者です。しかし、米軍着陸帯の建設を許さないたたかひに日々追われ、仕事ができない状態に陥っています。また、9月7日のいっせい地方選挙では東村議会議員選挙の候補者にもなり、多忙を極めています。そこで私たちは伊佐さんの生活を守るため「伊佐さんを守る会」を設立しました。伊佐さんの生活を財政的に支援することを目的とし、県内外からより多くの募金を集める会です。

安倍政権が集団的自衛権の公使容認など戦争する国づくりを進めるなか、これに毅然として抵抗する運動の価値はますます高まっています。その先頭にいる伊佐さんご夫妻の暮らしを守る募金を寄せていただくことをお願いし、会の設立趣意書とさせていただきます。

2014年7月1日

「伊佐さんを守る会」代表 大久保康裕

●募金の送金先（郵便振替）

名義 伊佐さんを守る会
口座記号番号 01790-8-142812

●連絡先

「伊佐さんを守る会」 〒900-0012沖縄県那覇市泊2-20-7山里アパート101号
電話098-988-8172 FAX098-988-8173
（事務所・電話番号は沖縄県平和委員会と沖縄県統一連と兼用です）